

「夏至の日の地球観望」

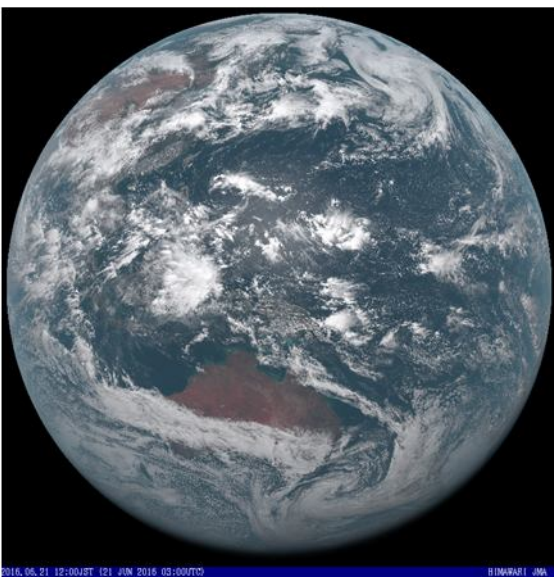
お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

地球の地軸は、公転面に対して約 23.4° 傾いている。そのおかげで、太陽を一周する間に、地球上にはさまざまな季節・気候・日照の変化が生まれる。夏至の日には、北緯 $66^\circ 33'$ より北の北極圏では、太陽が24時間沈まない「白夜」になる。

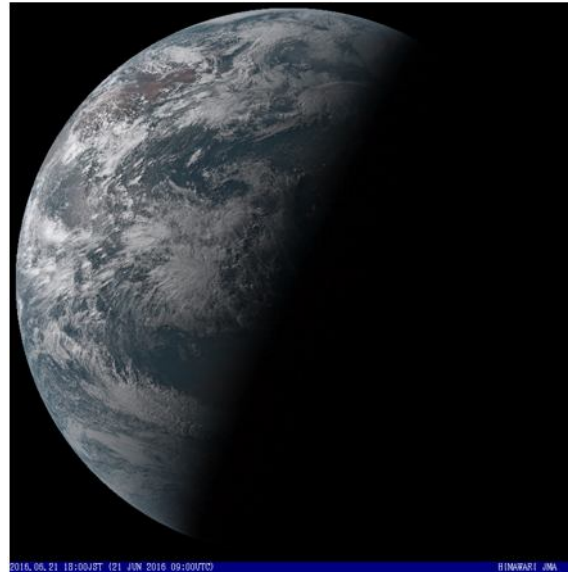


「白夜のノールカップ」 2013年撮影 C.Tanaka
北緯 70° のヨーロッパ最北の地である。太陽は北の水平線を這うように移動し、真夜中でも沈まない。

夏至の日の地球を宇宙から観望すると面白い。別に国際宇宙ステーションに搭乗する必要はない。気象衛星の画像が、その神秘的な姿を届けてくれる。



この写真は、夏至の日の12時（疑似太陽時）の地球の姿である。赤道よりもかなり北側に、太陽の反映の白い部分が見えるのがわかる。



こちらは、18時の地球。明暗（昼と夜）の境界線が地軸（北極～南極の軸）に対して約 23° 傾いている様子がよくわかる。気象衛星の写真モードを「全球」「可視光」「カラー画像」に設定すると、宇宙からの、「見た目」に最も近い地球の姿を観望できる。



そしてこれが夏至の日の午前0時の地球。気象衛星は静止衛星なので、赤道上空約 36000km の位置にある。その高度から見ても、本当に北極地方だけが「一日月」のように細く光っている。何と美しく、神秘的な光景だろうか。